

### 30. シイタケ原木の乾燥程度とほだ付き

林試宮崎分場 温 水 竹 則  
 日 高 忠 利  
 久 保 田 暢 子

#### 1. はじめに

シイタケのほだ付きに関し、原木の乾燥程度を知るために伐採、玉切り後、原木のかわきぐあいとほだ付きとの関係について実験を行なった。

#### 2. 実験の方法

昭和38年11月26日、25年生位のコナラ原木を伐採して、同年12月18日長さを1mに玉切りしたものを1月、2月、3月の3接種区に分け1処理10本ずつ3反覆して、林試宮崎分場構内ほだ場の木蔭に2本の丸木をしき、その上にそれぞれ横積み<sup>はし</sup>にしておいた。

乾燥は同年12月21日気乾重量を測定しておき、その後1ヶ月を経過するごとに重量を測定し、その重量差を求め、重量減少率で乾燥の程度を考察した。

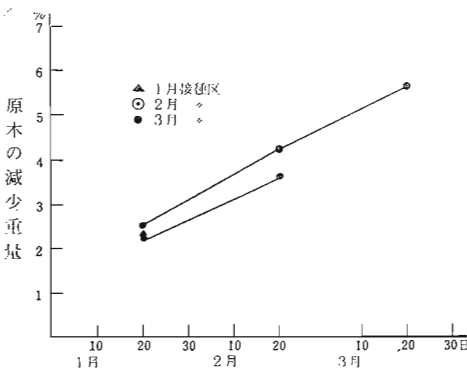
ほだ付きは、原木の重量測定と同時にそれぞれの月に種駒を打ち込み、39年7月17日剥皮して、種駒の活着およびほだ付きをしらべた。また40年7月20日には、外観から樹皮の色、害菌の有無をしらべ、ほだ付き状態を観察した。

#### 3. 実験の結果

##### (1) 原木の乾燥

原木の重量減少率を各月の種駒の接種時に測定した

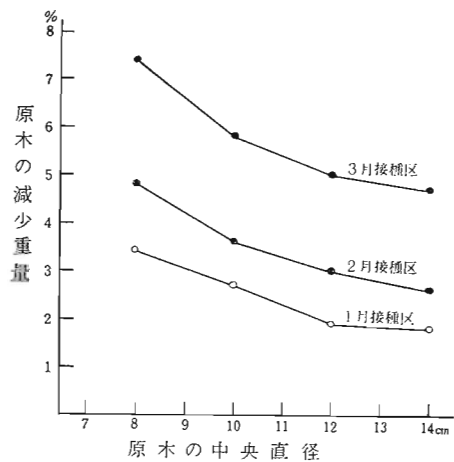
第1図 原木の重量減少率の時期的変化



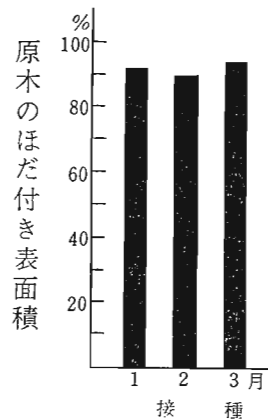
ところ、原木の平均重量減少率は、第1図のとおり、1月接種区は2.3%、2月接種区は1月が2.2%、2月が3.6%、3月接種区は1月が2.5%、2月が4.2%、3月が5.6%でいずれも玉切り後月平均2%位ずつの減少率であった。

経級別では、第2図のとおり中央直径8cm前後の小径木は、10cm以上のものにくらべ各接種区とも減少率の大きいことがみられた。

第2図 原木の経級別重量減少率



第3図 接種駒の種時期とほだ付き率



(2) 種駒の活着およびほだ付き

剥皮調査による種駒の活着およびほだ付きは、第1表のとおり各区とも良好で、接種時期別には大差がなく、その後のほだ付き観察においても第3図のとおり良好であった。

しかし、3月接種区は、その後のほだ付きがとくにすぐれ、樹皮の色がよく、害菌の寄生も殆んどなく、原木のかわきぐあい(減少率約6%)がほだ付きにも

っとも適していることが認められた。

4. むすび

- (1) この実験では、原木の重量減少率が、月平均2%内外で、8cm前後の小径木は、10cm以上の大径木にくらべて減少率が大きかった。
- (2) ほだ付きは、原木の重量減少率6%位のものが良好でかつホダ木の害菌防止上からもよいことが観察された。

第1表 種駒の活着およびほだ付きの比較

種駒の 接種時期	種駒の 活着率 %	種駒を中心としたほだ付きの程度					
		種駒1個 当りほだ 付き面積 cm <sup>2</sup>	ほだ木の長さの方向		ほだ木の長さに直角の方向		
			上	下	左	右	
1月	96 (103)	180 (107)	200 (116)	201 (99)	31 (103)	31 (107)	
2月	94 (101)	180 (107)	158 (92)	228 (112)	31 (103)	31 (107)	
3月	90 (97)	144 (86)	158 (92)	181 (89)	29 (97)	27 (93)	
平均	93 (100)	168 (100)	172 (100)	203 (100)	30 (100)	29 (100)	

〔注〕 ( ) 内の数字は平均を100とした時の値

31. しいたけ品種集約栽培試験

福岡県林業試験場 主 計 三 平

まえがき

しいたけの品種(系統)別発生時期、収穫量及び形質等は、気象条件の差異により異なることが知られている。従ってしいたけ栽培においては、その地域に適した且栽培計画に応じた優良品種を選定することが望ましい、そこで本県内に適する優良品種を選抜する目的をもって試験を実施したのでその概要を報告する。

本試験にあたり、供試菌の提供並びに懇篤なる指導を賜った温水技官、前当場利用課長、山内技師に対し厚くお礼を申し上げる。

1. 試験地

福岡県八女郡黒木町林試構内

2. 供試材料

23年クスギ(末口径8~12cm・長さ1.3m・410本)  
 種菌41系統(本場で分離した20系統 他社分)  
 (宮崎分場で分離された11系統 10系統)

3. 試験方法

当場で、みぞつき種駒に培養し、昭和35年1月伐採

(1) 永井行夫、伊藤達次、西村鳩子、しいたけ各系統の発生量及び生態的、形質的特徴